鳥栖中校区　小中一貫だより　第3号

鳥栖中　・　鳥栖小　・　鳥栖北小　　令和8年3月3日

鳥栖中校区３校では、小中連携で、小中合同の研究を行っています。下記が研究テーマです。

研究テーマ　**『心豊かで、たくましく、自ら学ぶ“とすっ子”の育成』**

今年度、**「学びつくり部」・「生活つくり部」・「仲間つくり部」・「特別支援教育部」**の4部会を組織し、小中合同で研究を進めています。 今号では今年度の各部の取組を振り返り、まだ紹介していない取組について報告いたします。

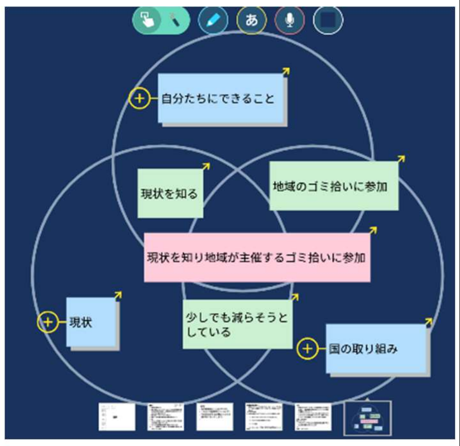
学びつくり部

○鳥栖北小学校の取組

今年度、鳥栖北小学校では、夏季休業中に講師をお招きして、学習用タブレットを使った「ロイロノート」の基本的な操作方法を全職員で学びました。その後、情報教育主任によるミニ研修を行い、どのような場面で有効に活用することができるかを検討しました。日常の授業準備においても、「今日の授業でこのように使ってみたのですが、どうですか？」「数人の考えを一つのシートに集めたいのですが、どうしたらできますか？」のようなやり取りが職員室でも見られるようになりました。

○小中相互の授業参観

1月15日に鳥栖中学校での研究授業（技術科）の参観を行いました。2月6日には鳥栖北小6年生の公開授業（社会科）の参観を行いました。学習用タブレットを使ったロイロノートやシンキングツール（思考ツール）の活用について情報交換ができました。今後も子ども達の学びが小中でつながるように、共通した意識をもって授業実践に取り組んでいきます。



ロイロノートでシンキングツール（思考ツール）を活用

仲間つくり部

○ 中学校の部活動紹介

12月4、12日に開催した「中学校説明会」にて、部活動紹介の動画を上映しました。チームの紹介をはじめ、特色や魅力などが分かりやすく伝わるように、部員たちで工夫を凝らしたものです。

児童の皆さんも、興味・関心をもって視聴していたようです。来年度、たくさんの新入生に入部してもらい、一緒に楽しく活動できることを期待しています。

○ 小中連携の振り返り

- 「小中合同あいさつ運動」･･･実施するにあたり、パソコン部制作の告知ポスターを各小学校に掲示しました。当日には、児童と生徒が元気に挨拶を交わす微笑ましい光景が見られました。
- 「いいとこ探偵団」･･･自分のがんばりを承認・感謝されることにより、自己肯定感を刺激される生徒が多く見られました。
- 「人権標語」の交換掲示･･･教員と生徒で協議して、優秀作品を選出しました。小学校にも掲示することで、思いの交流を図ることができました。

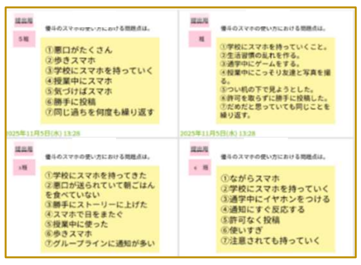
これらの実践により、児童生徒の自己肯定感や人間関係形成能力の向上が見られたと感じています。持続可能な活動を、さらに深めていきたいと考えます。

生活つくり部

～中学校の取組～

○「学習用タブレットの使い方」

タブレット機器の利用で守る6項目について、項目を最小限に、かつ短く、イラストを添えて作成しました。常に確認できるように、各生徒のデスクトップに表示設定する予定です。



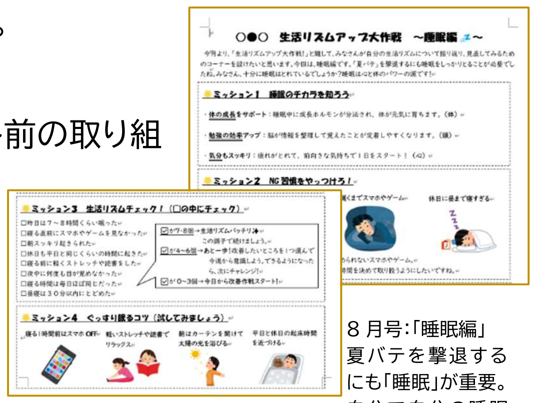
○研究授業（学活 「スマホの使い方」）

「スマホの使い方」を題材に学活の授業を行いました。ロイロノートを活用して、事前アンケートによる意見の共有、「スマホの使い方検定クイズ」の作成までを行いました。

生徒は、「下級生や小学生にも考えてもらいたい」と、作成した問題を見直しながら話していました。

○生活リズムアップ大作戦！

今年度は、例年の定期テスト前の取り組みに加え、「ほけんだより」において、生活リズム（睡眠・朝食・運動等）に関するコーナーを設けました。継続的な情報発信を通して、毎日の生活リズムを振り返る機会を提供することができました。



８月号：「睡眠編」
夏バテを撃退するにも「睡眠」が重要。
自分で自分の睡眠についてチェックしてみよう。

特別支援教育部

○「なかよし交流会」

１月27日に鳥栖中学校で、中学1年生と鳥栖小学校、鳥栖北小学校6年生との「なかよし交流会」が行われました。中学生が靴箱で出迎え、家庭科室へ案内、自己紹介をした後、体育館へ移動しました。体育館では、ジャンケン列車やドッジビーを楽しみ、再び家庭科室へ戻って、中学生への質問コーナーがありました。事前に伝えていた質問にしっかり準備をして答え、当日の急な質問にも、笑顔で答えてくれた中学生の姿を見て、6年生は進学への不安が和らいだようでした。また、中学生は会場の準備や進行をして6年生のお世話をすることで、自信をもつことができました。

○小中連携の取組のふり返り

特別支援学級在籍児童がスムーズに中学校に進学するための取組に力を入れてきました。「小学6年生の中学校授業参観」、「小学5年生保護者向け説明会」、「小学6年生保護者の中学校入学前面談」、「なかよし交流会」など、児童生徒だけでなく、保護者に向けた取り組みを行い、見通しをもってもらうことができたと思います。

教員間でも、各学校の授業を参観し合ったり、情報共有を行ったりすることで、児童生徒へ継続した支援ができる基盤作りができていると感じています。

発行：鳥栖中学校区小中一貫教育研究会